

祭礼に着目した都市空間の変容

渡辺 秀斗¹・吉川 眞²・田中 一成³

¹学生会員 大阪工業大学大学院工学研究科都市デザイン工学専攻博士前期課程
(〒535-8585 大阪府大阪市旭区大宮5-16-1, E-mail:m1m15109@st.oit.ac.jp)

²正会員 工学博士 大阪工業大学工学部都市デザイン工学科
(〒535-8585 大阪府大阪市旭区大宮5-16-1, E-mail:yoshikawa@civil.oit.ac.jp)

³正会員 工学(デザイン学) 大阪工業大学工学部都市デザイン工学科
(〒535-8585 大阪府大阪市旭区大宮5-16-1, E-mail:issey@civil.oit.ac.jp)

祭礼は古くから地域住民の協力によって担われ、受け継がれてきた歴史的に貴重な行事である。歴史的変遷のなかで形態を変えてきた祭礼もあれば、昔の形態を変えずに現代に至っている祭礼も存在する。人々は祭礼を通して、地域への親しみや帰属意識を感じることができる。また、祭礼は地域固有の魅力を引き出す観光資源とも成りえることから、日本が誇る文化遺産であるといえる。本研究では、祭礼が行われる空間、祭礼に関わるさまざまな要素が眺められる空間を「祭礼空間」と定義し、祭礼空間の都市空間への広がり进行分析する。

キーワード: 祭礼空間, 都市空間, 歴史的変遷, GIS

1. はじめに

日本の「まつり」は、「祀る」という言葉に由来している。つまり、神様や祖先を祀ることである。さらに、豊穡を祈願、感謝することや死者の霊を慰めたりすることが、祭礼の主な原点として挙げられる。日本人は古くから祭礼を大切にし、また、地域住民との交流を楽しむ場として現在まで受け継いでいる。

日本全国には数多くの祭礼が存在する。祭礼はその土地の歴史や風習を形にしたものである。そのため、祭礼はそれぞれ固有の特徴をもっている。祭礼が行われる空間に着目すると、多くの祭礼が神社仏閣の境内で行われているが、境内に加えて境外でも行われる祭礼が存在する。都市空間の視点から祭礼を捉えるにあたって、境外での祭礼に着目することは、祭礼空間の広がり把握の上で重要である。境外で行われる祭礼のなかでもとくに魅力的なのが、祭礼の際に曳いたり担いだりする出し物である山車を用いた祭礼である。山車を曳く祭礼は多くの種類があり、だんじりを曳く大阪府の岸和田だんじり祭りや山鉦を曳く京都府の祇園祭、山笠を曳く福岡県の博多祇園山笠などが挙げられる。なかでも、だんじり祭りは岸和田市だけでなく、近畿地方、とくに大阪府の多くの地域で行われている。そのため、各地域によってだんじりの形態や曳行の違いがあり、地域固有の特徴を把握することができる。

だんじり祭りは、氏子町から始まり地域を巡り氏子町で終える。ただ地域を曳行するだけでなく、神社の境内での催しもある。このようにだんじり祭りは、神社の境内だけで行われる祭礼ではなく、都市内へ展開される祭礼として捉えることができる。都市内に展開されることで、普段私たちが利用しているような道路も、祭礼のときには祭礼空間として機能することになる。さらに、祭礼を感じることができる場所も祭礼空間として捉えられることから、祭礼が行われる場所だけでなく、眺められる場所も祭礼空間の一部となる。このように祭礼空間を都市空間の視点から捉えるとさまざまな場所が考えられる。

2. 研究の目的と方法

今日、近代化にともない、都市の魅力が失われてきている。都市における効率性、利便性だけを追求するのではなく、存在する固有の文化的な要素を見つめ直すことは、都市固有の特色を取り戻す上で効果的な方策であると考えられる。

本研究では地域固有の文化的な要素の中でも「祭礼」を取り上げている。とくに祭礼が行われる空間、祭礼に関するさまざまな要素が眺められる空間を「祭礼空間」として捉え、これを分析・把握することにする。研究に取り組むにあたって重要な点は、地域固有のまちづくり

や祭礼行事などを、現代に残された史料や祭りから捉え、GIS に代表される空間情報技術を用いて示していくことである。GIS を用いることにより、地図上に神社の位置や氏子地域などを定位し、祭礼が富田林市内でどのように広がっているかといったことを空間的に把握することが可能である。

3. 対象地の選定

本研究では大阪府富田林市を対象地としている(図-1)。富田林市は大阪府の南河内に位置し、都市化の進展とともに成長してきた都市である。

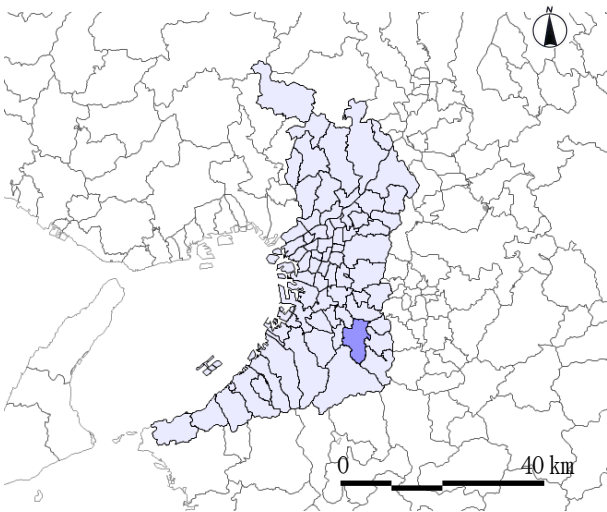


図-1 富田林市位置

市の北東平坦部は、南北に流れる石川をはさんで平野が広がり、古くからまちが開けた場所である。一方、市の南部は、雄大な金剛・葛城連峰を背景に緑豊かな丘陵と美しい田園風景が広がり、自然景観にあふれている。西部丘陵地域は計画的に開発の進んだ環境水準の高いニュータウンとなっている。富田林市には国の重要伝統的建造物群保存地区に指定されている寺内町がある。寺内町とは室町時代に浄土真宗などの仏教寺院、道場(御坊)を中心に形成された自治集落のことである。重要伝統的建造物群保存地区に指定されている寺内町は富田林市寺内町と奈良県の今井町寺内町の2カ所のみであることから、富田林市寺内町が歴史的に重要な拠点であることがわかる。このように富田林市は、昔から河内における重要な都市であったことが把握できる。

4. 富田林市の変遷と神社の分布

現在の富田林市に至るまでには、合併や編入を繰り返してきた過去がある。明治時代における現在の富田林市の範囲は25村から成り立っていた。その中でも富田林村には寺内町が存在しており、当時は酒造業が盛んであった。その後、町村制(1889年)、市制(1950年)がそれぞれ施行され、現在の富田林市へと変化してきた(図-2; 図-3)。現在の町名には、当時の村名が字名として残っている。

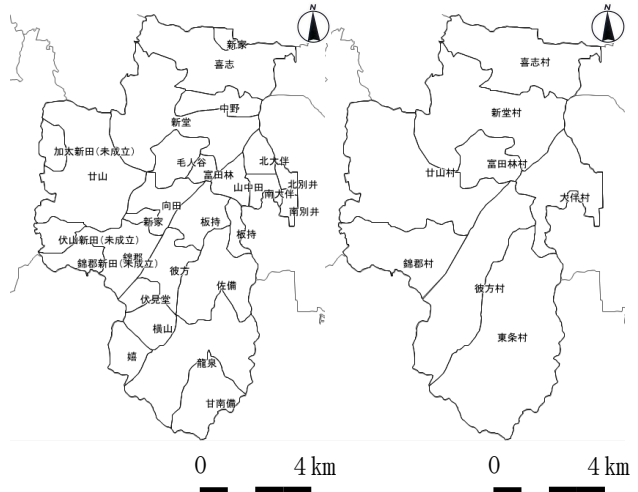


図-2 町村制(1889年)による変化

左: 町村制前25村 右: 町村制後7村

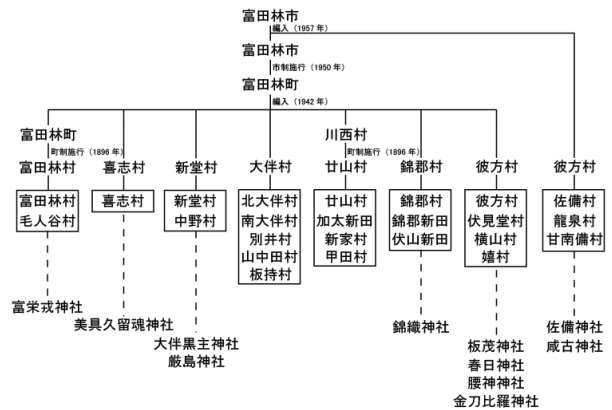


図-3 富田林市の変遷と神社の分布

次に、神社の分布の把握を行った。図-3には過去の村落に合わせて神社を示しており、図-4では神社の分布を示している。現在、神社は11社存在しており、分布状況を見ると市を南北に横切る東高野街道沿いに分布している。これは、東高野街道沿いにある神社が宿坊として僧侶や神職の宿営や休息の場となっていたことによる。

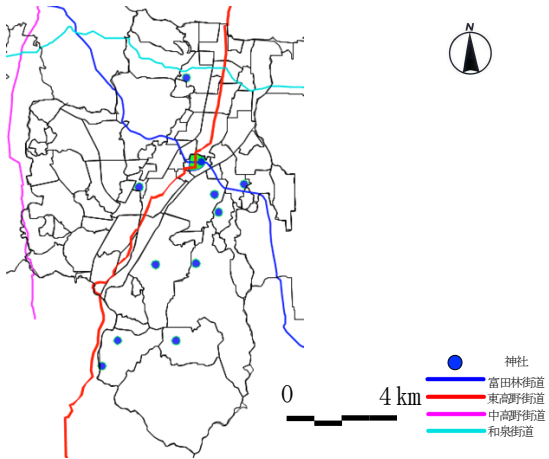


図-4 神社の分布

5. だんじり祭り

本研究では、都市に広がる祭礼の中でもだんじり祭りに着目している。富田林市をはじめとする南河内では秋にだんじりが巡行する祭礼が多く見られる。だんじり祭りと言えば、9月に泉州で行われる岸和田だんじり祭りが有名であるが、泉州だけでなく、さまざまな地域で夏から秋にかけてだんじり祭りが行われている(図-5)。

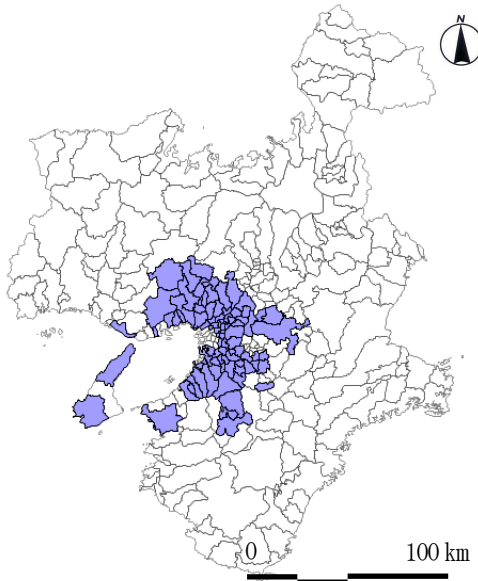


図-5 だんじり祭りが行われている地域

富田林市のだんじり祭りは、11社中6社で行われている。他社に合祀されたことにより、だんじり祭りが行われていない神社が存在する。29町がだんじり祭りに参加しており、氏子町ごとに1基のだんじりを所持している。また、曳行ルートも氏子町ごとに異なり、29種類の曳行ルートが存在する。これより、氏子町ごとの曳

行ルートの特徴を見出すことができる。氏子町の数としては、美具久留魂神社が12町と最も多く、次いで錦織神社の9町となっている。他の神社は1～3町である(表-1)。

表-1 神社6社と氏子町29町

神社	氏子町	神社	氏子町
美具久留魂神社	若松1丁目	錦織神社	宮甲田
	新堂		甲田
	喜志		甘山
	喜志新家		錦織
	宮		五軒家
	櫻井		伏山
	中野		須賀
	川面		新家
	平町		加太
	毛人谷	上佐備	
	寺内町	佐備神社	中佐備
木戸山町		下佐備	
春日神社	彼方	大伴黒主神社	山中田
	伏見堂	板茂神社	西板持
	籍		

6. 祭礼空間の把握

(1) 祭礼空間

祭礼空間を把握していくにあたって、本研究では、祭礼が行われる空間、祭礼に関するさまざまな要素が眺められる空間を「祭礼空間」と定義し、都市空間に祭礼空間がどのように広がっているかを季節ごとに把握する。まず、祭礼空間を示すベースとなる地図を作成した。地図には神社の分布、街道、神社の氏子町を定位しており、これより祭礼空間が広がる可能性がある場所を把握できる。また、祭礼が眺められる空間については、GISのツールである可視・不可視分析を用いて示している。

(2) 特徴的な広がり

29町ある氏子町のなかでも特徴的な部分について着目する。図-6には美具久留魂神社の氏子町12町と、各町のルートを示している。富田林市のだんじりは、氏子町からはじまり、氏子町で終わる。しかし、毛人谷は現在住人がいないこともあり、地車庫は町内にはなく、ルートも町内を曳行せずに、毛人谷町周辺までにはしかこないルートとなっている。

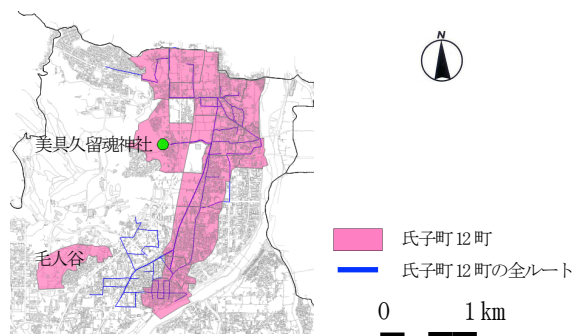


図-6 町内を曳行しない毛人谷

6社の内2番目に氏子町が多い神社が錦織神社である。その氏子町に五軒家と加太という町がある。この2町は、神社からニュータウン地域を挟んだ場所に位置している(図-7)。富田林市では、氏子町は神社周辺にあることが多いが、錦織神社では神社から離れた場所にも氏子町があるという特徴がある。そのためルートはニュータウンを横切る。

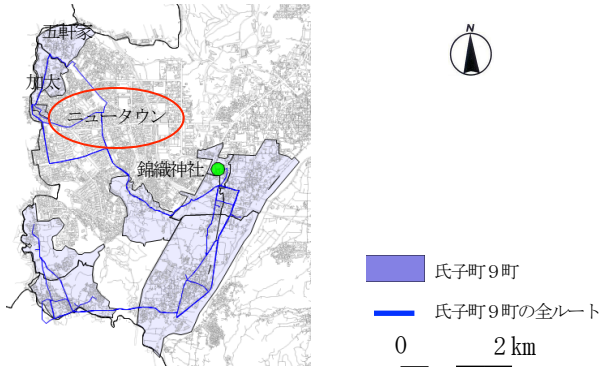


図-7 神社から離れた氏子町

町によってはルートが重なっているところもある。図-8には、山中田、西板持、上佐備の3町のルートを示している。だんじりのルートは各氏子町によって異なる。この3町は氏神がそれぞれ違うが、赤線で示している場所ではルートが重なっている。

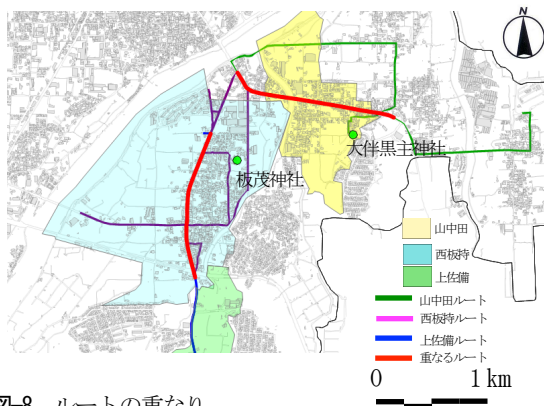


図-8 ルートの重なり

ここからは「祭礼に関するさまざまな要素が眺められる空間」に着目する。だんじりが都市を曳行する際にどこから眺めることができるのかを把握するために、可視・不可視分析を行った。基盤地図情報数値標高モデル5mメッシュを用いてTINを作成し、建物部分については、基盤地図情報の建築物ポリゴンにGoogle Earthより抽出した高さ情報を付与することで作成した。これらのデータを1mグリッドでラスター化したものを用いた。だんじりの曳行ルート上に配置するポイントは、多くのだんじりが高さ4m前後であることから4mに設定し、曳行ルート上に5m間隔で配置している。分析を行うにあたっ

て、人間が対象をはっきりと見ることができる視角、熟視角 1° を適用し、これを元にだんじりを認識できる距離を230mと定めた。そして、ルート上に半径230mのバッファを作成し、バッファ円から建物と水面を切り取った部分の結果を示している。図-9には美具久留魂神社の事例を示している。だんじりが都市を曳行することで、祭礼が行われる空間が都市に広がるとともに、だんじりを眺めることができる空間が可視領域として、都市に広がっていることが把握できた。

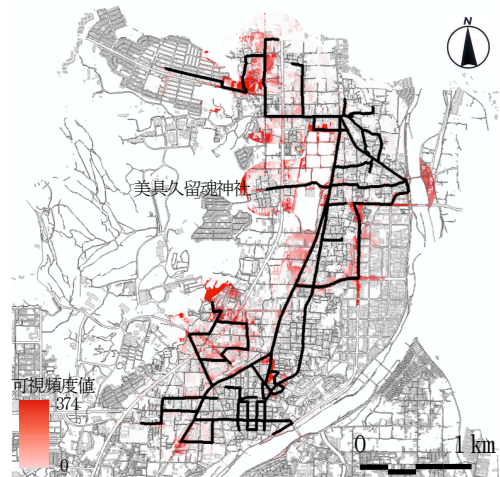


図-9 可視・不可視分析の結果

7. おわりに

(1) 結果

富田林市の行政区域の変遷を把握した。さらに、だんじり祭りに着目し、氏子町の特徴的な違いと可視領域として都市空間に広がる祭礼空間を把握した。

(2) 今後の展開

道祖神や地藏菩薩など、祭礼空間を形成する要素となるものは他にも考えられる。今後は、それらも含めて都市空間に広がる祭礼空間を分析・把握していくことにしている。

参考文献

- 1) 渡辺秀斗, 吉川真, 田中一成: 都市に広がる祭礼空間の分析・把握, 景観・デザイン研究講演集, No. 11, pp. 232-235
- 2) だんじり eo Special Edition
<http://eonet.jp/danjiri/>
- 3) 富田林市史編集委員会: 富田林市史第二巻, 1998